學年度第一學期Eurasia基金會(from Asia)國際講座

「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次(9)

講題: 漢字語彙習得的最前線

陳毓敏

(2026.11.12)

摘要

本週邀請到的講師為本校日文系陳毓敏主任，講題為漢字語彙習得的最前線。陳主任為日本御茶水大學的博士，專門為日語教育，主攻漢字語彙的習得，對於第二語言習得論與漢字語彙的習得有很深入的研究。陳主任同時也是本系畢業的優秀校友。本次演講的主題大綱大致上可以分為以下四個面向：

一、為何研究漢字語彙

陳主任首先舉一些看似簡單，實際上又年不太出來的漢字語彙（如：生憎、猪口、気配）問同學是否知曉其義？然後從漢字的「形、音、義」三個面向分析日中漢字的異同：

形： 比較中日文漢字字形的不同，如：學/学、當/当、步/歩、屬/属等。

音： 說明日文相同字形但發音不同，如：男女（なんにょ、だんじょ）、利益（りやく、りえき）。

義： 比較中日文同形漢字在意義上的不同，如：大丈夫、迷惑、用心。

陳主任接著講述其最後選擇研究漢字語彙研究的心路歷程。

二、漢字語彙的對照研究

根據陳主任的說法，關於漢字語彙的中日對照研究，主要可分為下列四個類型：

1.結構研究

日文主要以名詞接續名詞(N+N)(如：牛乳)的形式最多；而中文則以形容詞接續名詞（A+N)(如：短線)居多。

2.逆轉現象研究

中日文語彙常有漢字顛倒的現象，稱為逆轉現象。

如：搬運／運搬（V＋V→V）、和平／平和（A＋A→A）、設施／施設（V＋V→N）、威脅（N＋V→V）／脅威（V＋A→V）等，其中日文「階段／段階（N＋N—＞N）」的語彙都有，而中文「痛苦／苦痛（A＋A→N）」都有。

3.詞類研究

根據先行研究的不同，對中日同形語彙的品詞分類也不盡相同。比如說中文的「發展」自動詞和他動詞的用法都有，但日文的「発展」只有自動詞的用法。中文的「緊張」主要是形容詞的用法，而日文的「緊張」則為自動詞；另外，中文的「根據」是動詞，而日文的「根拠」是名詞。

4.分類研究

陳主任舉了日本文化廳在 1978 年公布『中国語と対応する漢語』的調查和其在 2002 年的調查做了比較如下：

	語數	對照	Same（同義）	Overlap（類義）	Different（異義）	Nothing（脫落）
文化廳(1978)	2,000語	中	2/3(66.67%)		1/10(25%)	¼(25%)
陳（2002）	4,600語	中	54.5%	14.9%	4.1%	26.5%
		台	55.1%	13.3%	3.5%	28.1%

陳主任的分類法比起先行研究更加精確，目前已經成為漢字研究的新基準。另外，陳主任還介紹了中日漢字意思不同的原因：其中包含了因時代社會生活而產生變化、因讀音產生變化、以及因語意的抽象化、價值的差異等而產生的語意變化等，最後還介紹了從日本借用的漢字語彙（即和製漢語）。

三、漢字語彙的習得研究

接下來陳主任利用第二語言習得論的方法，從橫斷面（收集學習者某個特定時期的學習資料）和縱斷面（收集學習者長時間的學習資料）兩個面向，以 295 名台灣的大學生為對象進行研究調查。研究結果發現台灣人學習漢字語彙的方法有利用母語學習、記憶法、字典、其他（看日本節目，漫畫，記住慣用法等）等幾種。

此外，陳主任還介紹了第二語言習得理論之「轉移」，如正的轉移、社會文化的轉移、回避、過程的轉移、使用過剩、負的轉移、心理的轉移等。

陳主任研究的結論：在橫斷面方面：

1.初級學習者: Same , Overlap① ,Nothing① 容易
Overlap②, Nothing②, Different 難

2.日語能力不同學習者:

1 級 容易

2,3 級: Same , Overlap① ,Nothing① 容易
Overlap②, Nothing②, Different 難

3.學習環境不同學習者:

JSL1 級 , JSL2 級 , JFL1 級 容易

JFL2 級: Same , Overlap① ,Nothing① 容易
Overlap②, Nothing②, Different 難

簡單來說，級數越高（1 級）且同義的部分越容易習得，類義及異義對初學者而言越容易搞錯。另外，在縱斷面方面，則得到以下結論：

1.漢字語彙的錯誤不會隨日語程度、學年而消失。

2.所有種類的漢字語彙皆有誤用產生。

3.Chinese 的誤用最多，即使是高級學習者也不會消失。

4.Same 的誤用的原因為中日品詞不同或日語雖有但使用其他字彙等。

5.誤用跟正用同時存在。

最後陳主任也介紹了利用認知語言學的原型（prototype）理論，從論理性和心理性兩方面來分析哪一種語彙最先習得。結果由難而易分別是：異義語>類義語(不一致)；欠落語①(Ma+Mb≠MaMb) >欠落語②(Ma+Mb＝MaMb)；類義語（一致)；同義語

四、漢字語彙遊戲

陳主任近年在研究開設的課程為「語言學習遊戲融入教學之研究」因此課程最後介紹了兩個免費的漢字語彙遊戲，讓同學實際操作。

關鍵字:第二語言習得論、漢字語彙習得、横斷面研究、縱斷面研究、原型理論

中文整理　陳順益

2026.11.12

學年度第一學期 Eurasia 基金會(from Asia)國際講座

「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次(9)

テーマ: 漢字語彙習得の最前線

陳毓敏

(2026.11.12)

要旨

今週の講師は、本学日本語学科の陳毓敏主任で、講座のテーマは「漢字語彙習得の最前線」である。陳主任はお茶の水女子大学で博士学位取得、専攻は日本語教育、特に漢字語彙の習得を主な研究テーマとしており、第 2 言語習得論および漢字語彙習得について深い研究を行っている。また本学日本語学科の優秀な卒業生でもある。

今回のテーマの概要は、大きく以下の 4 つの側面に分けることができる。

一、なぜ漢字語彙を研究するのか

陳主任はまず、一見簡単そうに見えるが案外学生たちがわからない漢字語彙（例：生憎、猪口、気配）を取り挙げ、学生にその意味を知っているかを問いかけた。その上で、漢字を「形・音・義」という三つの観点から日中漢字の異同について説明した。

形：日中漢字の字形の違いの比較（例：學/学、當/当、歩/歩、屬/属 など）。

音：同じ字形でも日本語では読み方が複数あることの説明（例：男女〔なんにょ／だんじょ〕、利益〔りやく／りえき〕）。

義：同形漢字でも意味が異なる例の比較（例：大丈夫、迷惑、用心）。

その後、陳主任は最終的に漢字語彙研究を選んだ自身の経緯について述べた。

二、漢字語彙の対照研究

陳主任によると、漢字語彙の日中対照研究は主に以下の 4 つの類型に分けられる。

1. 構造研究

日本語では名詞＋名詞（N＋N）の構造（例：牛乳）が多く、中国語では形容詞＋名詞（A＋N）の構造（例：短線）が多い。

2. 逆転現象の研究

日中語彙では漢字の語順が逆になる現象が多く、これを「逆転現象」と呼ぶ。

例 : 搬運／運搬（V＋V→V）、和平／平和（A＋A→A）、設施／施設（V＋V→N）、威脅（N＋V→V）／脅威（V＋A→V）。また、日本語では「階段／段階（N＋N→N）」の両方が存在し、中国語では「痛苦／苦痛（A＋A→N）」の両方がある。

3. 品詞研究

先行研究によって、同形語彙の品詞分類が異なる場合がある。例：

・中国語の「發展」は自動詞・他動詞両用だが、日本語の「発展」は自動詞のみ。

・中国語の「緊張」は主に形容詞だが、日本語の「緊張」は自動詞。

・中国語の「根據」は動詞だが、日本語の「根拠」は名詞。

4. 分類研究

陳主任は、日本文化庁が 1978 年に発表した「中国語と対応する漢語」に関する調査と、陳（2002）の調査の比較を紹介した。

	語数	対照	Same（同義）	Overlap（類義）	Different（異義）	Nothing（欠落）
文化庁（1978）	2,000 語	中	2/3(66.67%)	1/10(25%)		¼(25%)
陳（2002）	4,600 語	中	54.5%	14.9%	4.1%	26.5%
		台	55.1%	13.3%	3.5%	28.1%

陳主任の分類法は先行研究より優れているため、現在は漢字研究の新しい基準となっているという。さらに、日中漢字の意味が異なる理由として、時代や社会生活の変化による意味変化、読音の変化、語義の抽象化や価値観の違いによる変化などを挙げ、最後に日本から中国へ逆輸入された漢字語彙（いわゆる和製漢語）についても紹介した。

三、漢字語彙の習得研究

続いて陳主任は、第 2 言語習得論の方法を用い、横断的研究（ある特定時期の学習者データを収集）と縦断的研究（長期間の学習者データを収集）の両面から、台湾の大学生 295 名を対象に調査を行った。

研究の結果、台湾人学習者が漢字語彙を習得する際の方法として、母語を利用した学習、記憶法、辞書の使用、その他（日本の番組・漫画を視聴する、慣用表現を覚えるなど）があることが明らかになった。

陳主任はさらに、第 2 言語習得理論における「転移」についても紹介し、正の転移、社会文化的転移、回避、過程の転移、過剰使用、負の転移、心理的転移などについて説明した。

研究の結論（横断面）

初級学習者

Same、Overlap①、Nothing①　→ 容易

Overlap②、Nothing②、Different → 難しい

日本語能力の異なる学習者

1 級　→ 容易

2・3 級：

Same、Overlap①、Nothing① → 容易

Overlap②、Nothing②、Different → 難しい

学習環境の異なる学習者

JSL1 級、JSL2 級、JFL1 級 → 容易

JFL2 級：

Same、Overlap①、Nothing① → 容易

Overlap②、Nothing②、Different → 難しい

簡単に言えば、レベルが高い（1 級）ほど習得は容易で、同義の語彙ほど習得しやすい。一方、類義や異義の語彙は初級学習者ほど誤用しやすい。

縦断面の結果

漢字語彙の誤用は、日本語能力や学年が上がっても消失はしない。

すべての種類の漢字語彙で誤用が生じる。

Chinese（中日同形異義語）の誤用が最も多く、上級学習者であっても消失しない。

Same（同形同義語）の誤用は、中日で品詞が異なる場合や、日本語に語彙が存在しても別の語を使うことなどが原因である。

正用と誤用が同時に存在する。

最後に、陳主任は認知言語学におけるプロトタイプ（prototype）理論を用い、論理的側面および心理的側面の両方から、どのような語彙が最も早く習得されるのかを分析した。その結果、習得の難易度は難しいものから順に、以下のようになる。

異義語 ＞ 類義語（不一致）、欠落語①（Ma＋Mb≠MaMb）＞ 欠落語②（Ma＋Mb＝MaMb）、類義語（一致）、同義語。

四、漢字語彙ゲーム

陳主任は近年、本学科の大学院で「語言學習遊戲融入教學之研究（言語習得におけるゲームを教育への応用研究」という授業を開講しており、そのため講座の最後には、学生が実際に体験できる 2 つの無料漢字語彙ゲームを紹介した。

キーワード: 第二言語習得論、漢字語彙習得、横断的研究、縦断的研究、プロトタイプ理論

中国語整理　陳順益

日本語翻譯　CHAT GPT

日本語整理　塚本善也

2026.11.12